

は る み

出願番号：第8726号

出願年月日：平成8年4月2日

出願者：農林水産省果樹試験場

(茨城県つくば市藤本2-1)

育成者：吉田俊雄 山田彬雄

根角博久 上野 勇 伊藤祐司

吉岡照高 日高哲志 七條寅之助

木原武士 富永茂人 家城洋之

来歴：「清見」と「ポンカンF-2432」の

交雑実生

特 性

■栽培特性

樹勢は中庸で、やや直立性である。枝が一つの芽から多数発生する傾向があり、やや密生する。枝梢の長さ、太さは中庸である。短いとげが少しみられるが、樹勢が落ち着けば発生しなくなる。葉の大きさは「清見」とポンカンの中間で、両品種より丸みがある。新葉の硬化が比較的遅い。花は「清見」とほぼ同じ大きさである。花柱は湾曲し、葯は健全で花粉量は中程度である。有葉花の割合が比較的高く、着生した花の結実性は良好である。しかし、隔年結果性が強い。

■果実特性

果実の大きさは平均 190 g 前後で、果形指数120ぐらいの扁球形である。果頂部、果梗部ともにやや凹む。果皮は橙色でポンカンに似ており、厚さは3～4 mmで、果皮歩合は約20%である。油胞は小さく平らで、果面は滑らかである。剥皮は容易で、熟度や栽培条件により浮皮が発生する。果肉は橙色で比較的軟らかく、果汁量は中程度、す上がりの発生は少ない。じょうのう膜は薄く軟らかいので、口に残らず食べやすい。果心は大きく裂開し、空洞になる。果汁の糖度は普通13%程度で甘味が強い。酸含量は1月には1%程度になり、食味は良好である。果皮の完全着色期は12月下旬、成熟期は1月である。含核数は平均3粒程度で、無核果も混じる。多胚性である。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

そうか病に対しては強い抵抗性がある。かいよう病に対してもかなり強いが、夏秋梢の発生が多い若木の時期には防除が必要である。

果実肥大期に葉が黄ばみ、樹勢の一時的衰えがみられる。また、隔年結果性が強いので有機物の補給、灌水等の肥培管理を徹底するとともに、適正な着果に努める。着果量が少ないと大果になるが、果皮とじょうのう膜が厚くなり、果肉も粗くなって本品種の特長が失われるので、200 g 程度に抑えることが望ましい。

夏秋季に乾燥した年には、糖度が高くなる一方で減酸の遅れが強くなる傾向があるので、土壌水分管理に注意する。一方、成熟期以降の減酸は緩やかであるので、貯蔵中の味づけは少ない。

■地域適応性

果実肥大が良好で、ポンカンほど温度要求量が高くないと考えられる。また、成熟期が1月で比較的早熟性であり、東海地方から九州までのカンキツ栽培地域での栽培が可能で、適応地域は広いと考えられる。

発表後間もないので、まだまとまった産地はないが、静岡県、愛知県、広島県等で導入が検討されている。

(吉田俊雄)